

平成28年5月17日

学校教育計画(平成28年度～平成31年度)

学校名	生田高等学校	課程・学科 教育部門・学部	全日制・普通科
-----	--------	------------------	---------

1 学校のミッション

全日制普通科の高校として、生徒一人ひとりの学習や進路等の目標の実現に定めるため、学年制によるカリキュラム・マネジメントに学校全体で取り組み、学力の育成、豊かな人間性や社会性を培い、社会的・職業的に自立することをめざした学校づくりに取り組む。

教育課程については、共通教科・科目を中心に、生徒の特性や地域・学校等の実情を踏まえながら、普通科として適切な編成を行う。

これまで、生徒のリーダーシップと社会性を育成するため、生徒の主体的な学習を促すとともに、習得から活用まで幅広い内容の学習に取り組んできたが、今後はさらに、自ら課題を発見しその解決のため他者と協働して学ぶ力を育み、生徒の主体的に学ぶ意欲を高めることをめざす不断の授業改善の実施等、これからの時代に求められる資質・能力の育成に向けた教育活動の充実に取り組む。

また、これまで自然科学コースで取り組んできた成果を学校全体の特色とする編成に取り組むとともに、平成28、29、30年度の3年間「ICT利活用授業研究推進校」として研究開発に取り組む、その成果を地域の県立高校に様々な機会を設けて普及する。

2 学校教育目標

1. 心身ともに健康で、個性の伸長に努力する人間を育成する。
2. 真理を愛し、自主性に富み、文化の創造に寄与する人間を育成する。
3. 責任を重んじ、相互に尊重しあって、民主的な社会の発展に協力する人間を育成する。

3 計画作成時点での課題

- 生徒の家庭における学習時間が短く、学校評価アンケートの結果でも生徒自身の学習に対する満足度が低い。
- 教育課程と授業時間を見直し、1単位時間あたりの年間授業時間を確保する必要がある。
- ICT機器の利活用やアクティブラーニングを取り入れるなど、生徒主体の学習活動を幅広く取り入れた授業づくりを学校全体で推進していく必要がある。
- 自然科学コースがこれまで実践してきた特色ある学習活動を今後も継続する必要がある。
- 本校の教育の原点である「自由と規律」の精神の意味を十分にわきまえていない生徒が見られる。
- 自分がやりたいことを実現するために、粘り強く努力する意欲の高い生徒を育成する必要がある。
- 交通マナーを遵守できない生徒がおり、交通事故も多く発生している。
- 学校評価アンケートの結果を学校づくりに十分活用できていない面がある。

4 4年間の目標と主な方策

	視点	4年間の目標	目標達成に向けた主な方策
1	教育課程 学習指導	(1) 1単位あたりの年間授業時間が確保できるように、授業時間と教育課程を見直す。 (2) 自然科学コースが実践してきた様々な取組を、今後も特色ある学習活動として活かしていく。 (3) ICT機器を利活用しながら生徒主体の学習活動を取り入れた授業づくりを学校全体で実践し、その成果を積極的に発信する。 (4) 多様な学習課題を提供して家庭での学習習慣の定着を図るとともに、自ら学ぶことの楽しさや喜びを経験させる。	(1) 生徒のニーズに応じて、科目を幅広く選択できるように教育課程を改定する。 (2) 自然科学コースが実践してきた特色ある科目を選択科目として位置づけ、大学等と連携した出前授業を取り入れる。 (3) ①情報端末を活用した協働学習や反転学習を授業に幅広く取り入れる。 ②公開授業や研究協議会を実践し、指導者の授業力向上を図り、ICT機器のより有効な活用方法を研究する。 (4) オンライン学習サービスやクラウドシステムを活用し、生徒に自発的な家庭学習を促す。
2	生徒指導・支援	(1) 自ら進んで規律やマナーを遵守する心を育むとともに、TPOを踏まえた行動や服装を促す。 (2) 生徒や保護者が何でも安心して相談できる校内体制をつくる。 (3) 学校行事や部活動を通して、生徒の社会性を育み、豊かな人間関係を構築する力を培う。	(1) 「自由と規律の精神」が持つ意味を再認識させ、場にふさわしい服装や行動を促す。また、交通マナーやSNSに関するマナーを徹底する。 (2) 教員のスキルを高め、教育相談を組織的に実施する。 (3) 生徒が主体となって企画・運営する学校行事や部活動を支援する。
3	進路指導・支援	(1) 自分が本当にやりたいことを実現しようとする意欲ある生徒を育成する。 (2) 自分の興味・関心・適性・学力など、生徒が自己理解を深めさせる取組を充実させる。	(1) 総合的な学習の時間・LHR・学年集会を活用し、進路ガイダンスやキャリアカウンセリングを積極的に実践する。 (2) 生徒・保護者に対して、最新の進路情報や大学改革に関する情報を幅広く提供する。
4	地域等との協働	(1) 生徒に地域の一員であることの自覚を促し、生徒・保護者・教職員・地域間に協力関係を築き、学校と地域の絆を深める。 (2) 学校づくりに関する情報を地域に向けて積極的に発信する。	(1) ①学校と地域が連携しながら防災や交通安全に関する取組を実施する。 ②地域の方と生徒が互いに交流する機会を増やす。 (2) ホームページに学校行事や部活動の情報を積極的に掲載する。
5	学校管理 学校運営	(1) 保護者・学校評議員・地域の方の意見を幅広く取り入れ、開かれた学校づくりを推進する。 (2) 生徒が充実した学校生活を送れるように、安全安心な学校づくりを推進する。	(1) 学校評価アンケートの結果や学校評議員会で出された意見を学校づくりに積極的に反映させる。 (2) 施設・設備の安全点検や不祥事防止に関する取組を充実させるとともに、生徒の人権意識を高め、いじめ等の未然防止に積極的に取り組む。